



# 家庭学習の手引き

## 1 家庭学習の必要性

学力を向上させることは、生きる力を獲得する上で、大切な要素になります。そのため、授業に真剣に取り組むことはもちろんですが、家庭での予習・復習が大切になります。学校で得た知識や技能は、家庭で反復学習等を行うことで定着するからです。また、学校で学ぶ前に予習をしておくと、授業での理解が深まるからです。

家庭学習を継続し、計画的に学習を進めることにより、着実に学力を向上させ、希望の進路実現を目指しましょう。

## 2 学習の計画づくり

### (1) 1日の中で考えると…

- ①学校から帰ってきてすぐ～夕食まで
- ②夕食後すぐ～1時間、入浴を済ませてから寝るまでに1時間
- ③夕食、入浴を済ませてから
- ④始める時間を決めて

このように、時間をうまくやりくりすることが大切です。



### (2) 1ヶ月で考えると…

- ①授業がある日ごとに取り組むとよい学習……数学・英語・漢字
- ②章や単元が終わるごとに取り組むとよい教科…理科・社会・国語
- ③テスト前に集中して取り組むとよい教科……技術・家庭・保体などの教科  
きちんと先を見通した計画が大切です。

### (3) 3年間で考えると…

- ①1年生  
基礎をしっかりと身に付ける。国語の漢字や文法，数学の計算，英語の単語や基本文法。各教科の重要な語句を覚える。
- ②2年生  
自分の勉強方法の確立。不得意教科の克服。
- ③3年生  
3年生の学習内容の定着と1，2年生の復習，受験勉強との両立。3年間，目標をもって学習を地道に継続することが大切です。

## 3 学習時間の目安

1日の中の決まった時刻に家庭学習の時間を設定すると効果的です。なぜなら、家族もこの時刻は家庭学習をする時間だと分かり、協力をしてくれるからです。

また、長ければよいというものではなく、自分に与えられた時間の中で、「毎日、いかに効果的に、習慣化して学習できるか」が大切です。

自分自身の性格や生活スタイル，部活動などで，毎日決まった時間を家庭学習にあてられない人もいますが，時間が取れない場合は工夫次第だと考え，取り組んでみましょう。

例えば、

- (1) 1年生…… 80分以上
- (2) 2年生…… 90分以上
- (3) 3年生…… 100分以上(部活動引退後はプラス $\alpha$ 分)

#### 4 家庭学習の方法

家庭学習の仕方が分からないという人もいるかもしれませんが、下にしたことを参考にしてみてください。

##### (1) 何をするか？

- 反復学習**：大事な言葉や単語、法則や解き方の反復学習で、テストの点数のおよそ半分が取れます。
- 要点をまとめる**：単元や章が終わったら、自分でノートに要点をまとめる（家庭学習ノートがあるといいです）。
- 応用問題**：問題集で応用力を付ける（入試に向けても必要です）。

##### (2) どのように

###### ○教科書とノートで

- ・基本的な事柄や言葉（特に、教科書の太い黒字など）を覚える。
- ・教科書を3回読む。
  - ①流れを読む。
  - ②大事な言葉に印を付けながら読む。
  - ③解き方や図、表に注目して読む。
- ・教科書の問題や例題を解く。
- ・単元ごとに、教科書をよく読み、家庭学習ノートなどにまとめる。
  - ①年代ごとにまとめてみる。
  - ②図を使って、覚えている事柄を書き込んでいく。



###### ○学校で使っているワークや単元テストなどで

- ・学校のワークや単元テストを3回解く（定期テストでの出題率も高いです）。
  - ①調べながらでもやってみる。→「あ～、なるほど！」
  - ②見ないでやってみる→「まだできなかった。」
  - ③最後の確認→「できた。ばっちり！」
- \*できたところは1回でよい。できなかったところや不安なところを中心に3回。
- \*解答の解説は納得できるまで読み込む。

###### ○自分で用意した問題集で

##### (3) 問題集の選び方

高校受験を考えると、教科書だけでは十分とは言えません。

###### ○主に国・数・社・理・英の5教科

- ・学年毎、もしくは科目ごと（社会の「地理」「歴史」「公民」など）
- ・出版社に気を付ける（教科書とマッチした内容かを確認）。
- ・自分がやる気の出る問題集
  - 自分で80点くらい取れるもの（あまり難しいとやる気が出ません。）
  - 薄いもの（厚すぎるとやる気が出ません。「あ～やった！」という達成感も必要。）
- ・答えを書きやすいもの

## ○高校入試に向けて

- ・要点がまとめてあるものが付いている問題集だと、基礎が不十分な場合には使いやすいです。
- ・3年生になると、「1・2年の復習」と名の付く問題集や、入試用の問題集が書店で販売されます。（秋頃が多いです。）

## (4) 成績によって学習方法を考える

評定4・5：応用力をさらに付ける。

→問題集を購入し、応用問題をたくさん解く。

評定3：応用力を付ける。

→基礎ができていますので、あまり難しくない問題集を購入し、応用問題・文章問題に取り組む。

評定1・2：残念ながら基礎が不十分な状況です。

→教科書を何回も読んだり、教科書の問題をしっかりと解けるようにしたりすることから始めてください。単語や用語を覚えたり、計算したりしながら、反復練習を心掛けてください。

## (5) 学習のスタイル～読む・見る、書く、聞く

□に出して読む、書いて覚えることは、記憶が高まると言われています。読む場合は、目と口と脳を使います。書く場合は、目と脳と手を使います。学習するときに、作業の種類が多い方が記憶の定着率が高くなります。一番定着率が高いのは、「読みながら書く」という学習方法になります。

ただし、人には「見て覚える方が覚えられる」、「書いて覚える方がいい」、「聞いて覚える方がいい」というように、得意とする方法があります。自分が一番覚えやすいのはどれか知るのもいい方法です。

## (6) 学習環境づくり

○1人で勉強できる場所がある。机がある。

○机の上はいつもきれいである。つまり、すぐ勉強に取りかけられる状態。

○勉強するとき、手の届くところにマンガや音楽機器、スマホなどを置かない。

○そばに、辞書や教科書など、すぐ調べられるものがある。

○問題集や家庭学習用のノートがある（やることが決まっているとすぐに取りかけられる）。

○秋冬は、特に部屋の温度は24℃以下がよい（あまり高いと眠くなる）。

## (7) 各教科の学習方法

### ○国語

- ・教科書を繰り返し音読する。
- ・新出漢字や読めない漢字、意味の分からない語句は辞書を使って調べる。
- ・学習してきた漢字を繰り返し書いて覚える。（毎日最低80字は練習。同じ漢字を連続して練習しない。）
- ・授業で使ったノート、プリントやワークを整理し、授業の振り返りをする。

### ○社会

- ・次の授業で学習する教科書約2ページ分を読む。
  - ・授業で学習したことをその日のうちに教科書やワークで復習し、重要語句を書いてしっかりと覚える。
- 地理…地図を描いて、地形や気候、産業などを書き込む。

歴史…歴史の流れがつかめるように、歴史上の人物や出来事を時代ごとにまとめる。

公民…政治や経済等の仕組みを図式化してまとめてみる。専門的な用語の意味をつかむ。

#### ○数学

- ・授業で使ったノートやプリントを整理し、授業の振り返りをする。
- ・授業で学習した問題をもう一度解いてみる。
- ・間違えた問題ができるまで繰り返し解いてみる。

#### ○理科

- ・授業で使ったプリントやワークを整理し、授業の振り返りをする。
- ・学校で学習したことに工夫を加えてノートにまとめる。
- ・学習した理科用語を正しい漢字で書けるようにする。

#### ○英語

- ・教科書を音読する。（1ページ3回音読→読めない単語のチェックと確認）
- ・毎日1ページ英語を書く。（単語，連語，基本文を何度も練習）
- ・学校で出された課題（ワークやノートのまとめ等）を確実にやり遂げる。
- ・新出単語や教科書の本文の意味は辞書を使って調べる。

### 5 受験に向けた復習のサイクル

復習のタイミング（サイクル）には個人差があります。自分に合ったタイミング（サイクル）を見つけることが大切です。基本的には、次のような復習のタイミング（サイクル）が必要です。

- 1回目の復習：毎日の家庭学習
- 2回目の復習：土日に今週どんなことを学習したかを振り返る
- 3回目の復習：単元テストや定期テストへ向けた学習
- 4回目の復習：長期休業中の学習
- 5回目の復習：学力テストに向けた学習
- 6回目の復習：受験に向けての復習



### 6 読解力

テストや高校の入学試験は筆記試験がほとんどです。そのためには、問題の文章を読み、内容を理解するといった、活字から情報を得る力が必要になります。これは、1週間や1ヶ月で身に付くものではありません。毎日、少しずつ…が必要です。

- ①教科書を必ず読む。学習の基本です。
- ②好きな本を読む。情景や登場人物の気持ちを理解しながら読むことができます。
- ③スポーツや趣味の雑誌を読む。何を説明しているのかを理解しながら読むことができます。
- ④マンガを読む。マンガとはいえ、勉強になることは数多く含まれています。絵を見ながらセリフの情景を読み取ることができます。
- ⑤新聞を読む。新聞は情報を詳しく説明されている文章です。何が重要かを考えながら読むことで、読解力を付けることができます。

以上が家庭学習の手引きです。内容を少しでも自分の家庭学習に生かし、更なる学力向上を広陵中生全員で目指してみよう！！